

会報

明石のぼうさい

編集発行/明石防火協会(明石市消防本部予防課内)
〒673-0044 明石市藤江924番地の8
TEL(078)918-5272 FAX(078)918-5983
ホームページアドレス: http://www.akashi-bouka.jp/

平成27年明石市消防出初式

一月十一日(日)午前九時四十五分
から市役所周辺で明石市消防出初式
が挙行されました。
消防署・消防団の車両五十七台を
先頭に、消防吏員、消防団員、自衛消
防隊員、婦人防火クラブ員、子ども消
防隊員八百八十三名が入場行進しま
した。
この日は好天に恵まれ、参加して
いただいた六十五名の工場部会の自
衛消防隊員は、行進曲が会場に響き
渡ると、たちまち意気揚々とし、活気
に満ちた態勢となって元氣よく堂々
と観覧位置へと行進して行きました。
その後の式典は、例年どおり市民会
館大ホールで、表彰授与式、市長式辞、
消防長誓いのことば、来賓祝辞、消防
団長挨拶、万歳三唱と続き、式典は終



今年、女性消防団員が消火器を
使った初期消火訓練や、藤が丘班に
よる水出し小型ポンプ操法が行われ、
消防団員のきびきびとした姿を披露
していました。毎年恒例の一斉放水
は、消防団の各分団からの代表班が
日頃の成果として可搬式ポンプを使



了しました。また式典と並行して市
民会館西側駐車場の二階において、
アトラクションが催されました。
消防車の試乗・放水体験・救助体
験・写真撮影コーナーや、当協会所
有の濃煙体験テントのコーナーには、
親子連れの方を中心にくくさんの方
がこれ大盛況でした。
最後に駐車場二階・市役所本庁舎
北側において消防救助隊による演技
消防署・消防団による各演習が行わ
れました。



なお、式典では防火対象物及び危
険物施設の火災予防・保安管理に多
大な成果を挙げた事業所並びに永年
労が顕著な事業所が表彰されました。

〔表彰事業所は次のとおりです〕

- 〔防火管理優良事業所〕
・富士通株式会社 明石工場
・株式会社明石商工会館
・株式会社グリーンヒルホテル明石
・医療法人社団仁恵会 石井病院
〔危険物保安管理優良事業所〕
・株式会社一カク工業

平成26年 火災・救急の統計

平成26年中における明石市内で発生した火災・救急の概要がまとまりました。平成26年中の火災件数は77件、死者3名、負傷者18名となりました。

火災の概要

●前年度の比較(件数)

区分	平成26年	平成25年
建物	44	34
林野	0	0
車両	6	11
船舶	0	1
その他	27	32
合計	77	78

●出火原因(件数)

区分	平成26年	平成25年
放火・放火の疑い	17	26
たばこ	5	3
こんろ等	14	7
たき火・焼却炉	1	1
火遊び	6	5
電気関係	3	9
マッチ・ライター	0	0
ストーブ	2	0
その他	20	19
不明	8	8
調査中	1	0
合計	77	78

救急の概要

●前年度の比較(出動件数)

区分	平成26年	平成25年
急病	7,984	7,792
一般負傷	1,949	1,848
交通事故	1,087	1,188
自損行為	155	138
加害	107	92
労災	63	75
火災	45	40
運動競技	54	51
水難	5	13
自然災害	0	1
転院搬送	1,129	1,212
医師搬送	0	1
その他	305	273
合計	12,883	12,724

火災出動件数は77件(-1件)、死者3人(+1人)、負傷者18人(+10人)でした。建物火災44件、車両火災6件、その他の火災27件となっています。出火原因は、放火・放火の疑いが17件で最も多く、こんろによる火災も14件発生しています。今後も警察や地域の方々と連携し「放火されにくい町づくり」を作っていく必要があります。救急件数は12,883件(+159件)、救急搬送人員は11,041人(+96人)と過去最多を記録しています。救急搬送人員のうち、軽症者が5,375人、中等症者が5,001人、重症者が483人、死亡者が182人となっています。また、65歳以上の高齢者が6,101人搬送され、搬送人員の半数以上を占めています。事故種別で一番多いのは、急病7,984件、次に一般負傷1,949件、転院搬送1,129件となっております。

住宅火災による死者が急増!!

昨年末から、明石市において住宅火災件数が増加し、すでに三名の方が無くなられています。全国統計でも、建物の火災による死者の約九割が住宅火災によるもので、住宅火災による死者のうち約七割が高齢者であり、逃げ遅れが大きな要因となっております。火災から「命や財産を守るために住宅用火災警報器を設置(十年を目安に交換)しましょう。消火器を設置しましょう。防災用品を使用しましょう。

平成二十七年 春季火災予防運動

春季全国火災予防運動は、火災が発生しやすい時季を迎えるにあたり、火災予防思想の一層の普及を図り、もって火災の発生を防止し、高齢者等を中心とする死者の発生を減少させ、財産の損失を防ぐことを目的として毎年、消防記念日を最終とする一週間に実施しています。

実施期間 平成二十七年 三月一日(日)～三月七日(土)

- 実施要領
●住宅防火対策の推進
●放火・放火の疑い等の発生防止に向けた取組の推進
●特定防火対象物等における防火安全対策の徹底
●製品火災の発生防止に向けた取組の推進
●多数の者が集合する催しに対する火災予防指導等の徹底
●林野火災予防対策の推進
①住宅防火対策の推進
ア 住宅用火災警報器の設置の徹底、適切な維持管理の周知及び経年劣化した住宅用火災警報器の交換の推進
イ 住宅用火災警報器を始めとした住宅用火災機器等の普及推進
エ ウ たばこ火災に係る注意喚起広報の実施
消防用品の普及促進

- ②放火・放火の疑い等の発生防止に向けた取組の推進
ア 放火・放火の疑い等の発生防止に向けた取組の推進
イ パチンコ店及び物品販売店舗における放火・放火の疑い等の発生防止対策の徹底
ウ 効果的な放火・放火の疑い等の発生防止対策の実施
③特定防火対象物等における防火安全対策の徹底
ア 防火管理体制の充実
イ 避難施設等及び老朽化消火器を始めとする消防用設備等の維持管理の徹底
ウ 防火対象物定期点検報告制度及び防災管理点検報告制度の周知徹底
エ 違反のある防火対象物に対する是正指導の推進
オ ホテル・旅館等における防火安全対策の徹底
カ 表示制度及び公表制度の取組の推進
ク 高齢者や障がい者等が入居する小規模福祉施設における防火安全対策の徹底
ケ 有床診療所・病院等における防火安全対策の徹底
④製品火災の発生防止に向けた取組の推進
製品火災の発生防止に向けた取組の推進
ア 製品火災の発生防止に向けた取組の推進
イ 多数の者が集合する催しに対する火災予防指導等の徹底
ウ 催しを主催する者に対する指導
エ ガソリン等の貯蔵・取扱いに対する指導
⑤火災器具を使用する屋上等への指導
ウ 火災器具を使用する屋上等への指導
⑥林野火災予防対策の推進
ア 林野周辺住民、入山者等の防火意識の高揚
イ 火災警報発令中における火の使用制限の徹底
エ ウ 火入れの際の手続き等の徹底
林野所有者等に対する林野火災予防措置の指導の強化

平成26年度 防火ポスター展



山手小学校 4年 古川 凜



大久保北中学校 3年 稲山 憂依乃



福田保育園 年長 西 優希



錦が丘小学校 6年 四宮 妃望



高丘中学校 1年 内匠 恭子



魚住小学校 5年 平野 凜



防火協会恒例の主催行事として火災予防運動啓発用ポスターの募集を呼びかけたところ、市内の園児から中学生まで八百三十六名の応募がありました。審査は、十月七日(火)に行われ、伊津村副会長ほか五名の審査員により左記の方々が明石市長賞ほか、各賞に選出されました。



平成二十七年一月十九日(月)に、キャタピラー・ジャンパン株式会社明石事業所で自衛消防隊訓練が実施されました。就業中に大地震が起こり火災も発生したという想定で、通報、消火、避難誘導、安全防護、救護・搬送、消防署との連携を行う従業員約二千五百名が参加した大規模な総合訓練でした。何時起こってもおかしくないと言われる南海トラフ巨大地震に備え、皆さん真剣な顔立ちで訓練されていました。

自衛消防隊訓練



3 消防戦術の充実

はしご先端から無人遠隔放水ができるため、大火災、工場火災等に対し安全に効果的な消火活動を行うことができます。

2 放水開始時間の短縮

伸縮式水路管(はしごの伸縮する動きに合わせて自動で伸び縮みする鋼管)を装備し、放水するまでの時間を大幅に短縮することができます。

1 救助活動の効率化



平成二十七年一月三十日から、更新された最新鋭のはしご車が配備されています。主な特徴は次のとおりです。

最新鋭のはしご車を配備!!

出初を写そう!! 写真コンテスト



「機敏な動作に笑顔こぼれる」 山口 康博



「水煙に包まれ」都倉 重忠



「明石を守る男達」 荒木 貞夫



「元氣いっぱい!レスキュー隊員」 藤原 康次郎



「一斉放水」 角田 進



作品の展示

期間:平成27年2月18日~2月25日まで
場所:明石市役所2階ロビー

工場・危険物部会合同視察研修

— 明石特防・旅館ホテル部会合同視察研修 —

工場部会と危険物部会の合同による視察研修が平成二十六年十一月二十日(木)に、特防部会と旅館ホテル部会の合同による視察研修が平成二十七年二月六日(金)に実施されました。



今回の視察研修先は、両合同部会とも大阪市にある津波・高潮ステーションです。

津波・高潮が発生したときの西大阪地域の防災拠点および津波・高潮災害に関する啓発拠点となる施設です。かつて大阪を襲った高潮や、近い将来必ず大阪を襲うと言われていた南海トラフ巨大地震とともに、地震、津波発生時の対応などを学べる、広く開かれた施設です。



津波・高潮の恐ろしさやメカニズム、命を守るため日頃から心がけておきたいこと、災害にあったときの適切な行動を学ぶことができました。